

# 友のお供新聞

水戸RC  
雑誌委員会

## 世界でよいことを

### ロータリー財団100年



ロータリー財団の基礎を作ったクランプ氏

今年7月からロータリー財団百周年祝賀年度が始まりました。1916～1917年国際ロータリークラブ連合会（現国際ロータリー、RI）会長のアーチC・クランプ氏のアイデアから生まれ、「世界でよいことをする」ための基金設立の提案をしたのが始まりです。その歴史が特集されています。（●横組8P）

ロータリー財団の歴史を振り返る特集は、1917年のクランプ氏のメッセージからスタート。1947年には財団初のプログラム

「国際的な大学院教育のための奨学金」が発表。1951年のクランプ氏の逝去を伝えた7月号では「一生のうちに希望と夢をこれほど十分に実現できることのできる人は、めったにいない」と評されました。1979年には財団初の「保健、飢餓、人間性尊重（3H）」補助金によるフィリピンの子供たちへのポリオ予防接種プログラムが開始。2002年にはヨーロッパ地域からのポリオ撲滅、2014年には東南アジア地域も「ポリオフリー」宣言されました。

## 日本人の心で自立 世界のリーダーに

岡谷鋼機(株)の岡谷篤一取締役社長の講演要旨が紹介されています。創業は江戸時代の1969年。打刃物業としてスタートし、現在はものづくり貢献する「グローバル最適調達パートナー」商社に。岡谷さんは、戦後はアメリカ文化を見習って育ってきたが、今後は日本人の心を支えとして自立する時代

（●横組4P）

## 一からわかる米山奨学

「寄付しているものの、詳しくは知らない。かといっていままら聞けないし」という会員には、ぜひ読んでいただきたいのが「ロータリー米山奨学事業の基礎知識」。

初回の今月号は「奨学金制度編」。概要から目的、最大の特徴である世話クラブ・カウンセラー制度などわかりやすく解説しています。来月は「寄付金・財政編」です。

（●横組34P）

## ロータリーの友を読もう

「友のお供新聞」いかがでしょうか？ 7月に創刊いたしました。が、「字が小さくて読めない」「もっとレイアウトの工夫を」とのご意見をいただきました。今月号では、こうした

ご意見を最大限反映したつもりです。A4版という制約がありますが、今後ともみなさんからのご意見をいただきながらブラシアップしていきますので、よろしくお願いたします。

今月のトップ記事はロータリー財団百周年です。歴史をひも解くと、やはり世界的に重要な役割を果たしている、実感いたしました。ぜひ、「ローリーの友」の本誌を読んでいただきたいと思っております。

この「友のお供新聞」は、多くの会員に本誌を読んでもいただく呼び水になればと創刊したものです。「友のお供新聞」に熱中し過ぎ、すっかり本誌を読んだ気になつてしまわないようくれぐれもご注意申し上げます。

（風鳥）

## ★最高齢？の新会員

2016年3月、東京都摩クラブに90歳の女性が入会したそうです。歯科医の由井照子さん。今でも息子さんが営む歯科医院で働き、一人路線バスで例会に出席、会場監督に参加されているそうです。

（●縦組13P）

## ★盲学校の畑耕作

横浜南央RCは、2日間わたって私立横浜訓盲学院で荒地を整備し、大きな花壇を作りました。視覚障がいのある子供たちが自ら作業ができるよう花壇内に幅40センチの道路も設けたそうです。

（●縦組22P）

## ★ミッドCOMの防犯

水戸南RCは、地域で子供たちが事故や事件に巻き込まれないようにと、地元FM局と協力し、毎週金曜日の子供たちの下校時間に合わせ、地域住民に防犯を呼びかけるCMを放送しています。

（●縦組24P）

## ★宇宙にROバナー

今年1月下旬、国際宇宙ステーションの窓に、欧州宇宙機関のティム・ピーク宇宙飛行士が英国ロックスヒースRCのバナーを掲げました。バナーは地球に帰還後、例会場の最も高い位置に飾られるそうです。

（●横組22P）